

## 『もぐ∞(もぐのむげんだいじょう)』

最果 タヒ／著 産業編集センター(2017年)

詩人・最果タヒさんが書いたエッセイをまとめた一冊です。

パフェから中華料理、タイ料理までさまざまな食べ物への思いを短めの文章で濃厚に語りつくします。今まで特別おいしいと思っていなかった豆腐やそばのおいしさを理解できるようになり、ついにはコーヒーも飲めるようになった作者の豊かな感性で綴られています。



## 『レモンパイはメレンゲの彼方へ』

もとした いづみ／著

ホーム社・集英社(2016年)

春夏秋冬さまざまなオヤツ1つ、それにまつわる本が1冊紹介される一つで二度おいしいお話です。だれもが食べているものから、その土地に行かないと食べられないレアな物まで幅広く、また本もあー懐かしい、小さい時夢中になった本ばかりで共感すること間違いなし！1つのお話は必ず4ページと短く、ほっとさせる心地よい文章は、勉強のちょっとした息抜きにもピッタリです。読めば読むほどお腹が空くのでもちろんオヤツをお供にね。



## 『ヒカルの卵』

森沢 明夫／著 徳間書店(2013年)

「卵かけご飯専門店」を作る！養鶏場ではたらく二郎は、生まれ育った村に活気を取り戻すために一大決心。上手くいくわけがないとバカにされても諦めません。こだわりの卵やお米を、たくさんの人に食べてほしい。そしてふるさとを盛り上げたい。そんな思いを胸に、幼なじみの直子をはじめとする周りの人々の応援と協力を得て、お店のオープンを目指します。読んだ後にはほかほかの卵かけご飯が食べたくなる、温かい物語です。

## 『ずるずる、ラーメン(おいしい文藝)』

荒木 経惟／(他)著 杉田 淳子／編

武藤 正人／編 河出書房新社(2014年)

味噌、塩、醤油にとんこつ。太麺、細麺、ちぢれ麺。味玉、メンマ、炙りチャーシュー。日本のラーメンは最高においしい食べ物の一つです。

嫌なことがあった日に、「今日はラーメンだけでなく、豪華に唐揚げ定食のセットにしよう！」こう思うことはありませんか。そしておいしいラーメンに癒されて、大満足で食べ終わった途端、満腹過ぎて苦しむ。著者はおいしいラーメンの後にさわやかに満腹というラインを求めて日々挑戦を繰り返しているそうです。(『すべてはこってりのために』津村記久子)



## 『猟師食堂』

田中 康弘／著 柘出版社(2016年)

猟師食堂とは、その名の通り猟師が自分で捕まえた獲物を調理し、客に提供する食堂のことです。近年ではジビエ料理などが話題になっていますが、こちらは仕留めた猟師自身が獲物を料理します。猟師が向き合う自然の厳しさと恵み、生き物の命をいただくということ、人間が管理していない動物の味や栄養など、猟師たちの生活からさまざまなことを考えるきっかけになる一冊です。おいしそうな料理の写真もたくさん載っていますよ。



## 『超簡単なので自炊やってみた。』

自炊研究会／編 家の光協会(2018年)

お料理をしたことがありますか？初めてお料理を作る人もこの本さえあれば大丈夫！揃えたい調理道具や、レシピの見方、野菜の切り方など細かい説明でよく分かりますよ。材料によくある、しょうが1かけの分量も実物大でハッキリ。レシピも簡単！例えば、豚肉とキャベツを炒めて味付けはポン酢だけ。シンプルだけど、とても美味しそう。少ない種類の材料で、簡単な手順、味付けも基本的な調味料だけ。さあ、あなたも一度作って食べてみて。

